



令和6年度を振り返る ― 教職課程が「人づくり専攻」

教授 野々口 浩幸



令和6年度は、学生の皆さんにとってどのような1年となったでしょうか？

4年生はもうすぐ卒業です。時が

経つのは早いですね。卒業・修了展2025もお疲れ様でした。皆さんの作品を見ながら、一人ひとりの顔を思い浮かべていました。感慨も一入です。

さて、令和6年4月。1年生は不安と緊張感をもって大学生活がスタート。履修等の手続きはどうするの？ 友だちにはできるだろうか？ 美大での自分の美術のレベルはどの程度なの？ アパートでの一人暮らしを始めた学生は、いろいろな手続きや自炊生活が始まって、さらに不安が募ったと思います。でも、もう秋田での生活にだいたい慣れましたね。

2年生は1限の授業が増えて、遅刻しないように講義室まで走りこむ学生も。ある教職の先生は、遅刻に対しては厳しかったですね。

3年生は緊張に満ちた教育実習。それは「〇〇先生」と呼ばれた貴重な時間。生徒の時は感じられなかった教師の立場も経験しました。実習最終日には、送る会をやってもらったり、生徒たちから色紙をもらったりした学生もいるようです。教育実習を終えれば、教員免許取得という頂はもうすぐそこです。

そして、4年生は後期の教職実践演習で教職課程「完」。そして愈々、待ちに待った免許取得。卒業後の進路決定のために奔走するとともに、卒業作品の制作。ほんとうにお疲れ様でした。

大学生は、まだモラトリアムの段階。未熟な人は、生徒の前に立って「道を説く」ことは難しいでしょう。しかし、若さという特権で、失敗もたくさんし、知識も身につけながら自分を振り返ることで人は成長していきます。ある意味、うまくいかないことを振り返ることで成長できるのです。そのことを忘れないでください。

以前、ある大学の保健管理センターを訪ねて、そこに勤務する内科医とカウンセラーの方との会話で「今の大学院生は、昔の高校生。今の大学生は、昔の中学生」という共通認識があると言われていました。いつの時代も「今の若者は……」と言われるます。きっと皆さんも、やがては後輩や若者たちを見てそう思う日が来るのでしょう。

教職課程は、ある意味「人づくり」専攻。教師も、教師である前に「人」。皆さんは教職課程の学びで、人としてどれだけ成長したでしょうか？ 生徒の前に立つことの難しさ。教えることと育てることの大変さ。そして、いくら教師が頑張っても、結果を出すのは自分ではなくて「生徒」であること。生徒がやがて社会で自立して生きるために、その時々どのように関わっていけばよいか、ほんとうに悩みます。優しく甘えさせるだけでは、

一人前の大人とはなっていけません。ときには厳しく接することも必要です。

社会状況が変わり、それとともに人のあり方も変わってきます。物質的豊かさは、一方で人間関係の希薄さを生みました。人とつながらなくても、お金さえあれば生きられる……という時代。ただ国内外の長期的研究から幸福を感じている人たちの共通項目は、「良質な人間関係」を持っていることがわかっています。さらに人間関係のよさは寿命の長さとも関係があることまでわかっています。大切なのは数ではなく、「質」。もちろん、孤立ではなく孤独な状態にあっても幸せだと思っている人たちもいます。それでも人とつながっていなくて、生きていても寂しさを感じるのではないのでしょうか。人の幸福は、究極のところ人間関係にあると言っても過言ではありません。

人との関わり方や世界の見え方は人それぞれ。そこに自己という存在があり、そしてまた人との関わりを通して自己を理解することができます。

人間関係には、相性や好悪の感情があるのは当然。ただ「自分にとって大切な存在だ」と思って接することが大切だと考えます。それは、自分の感情を超えた人としての尊厳を大切にしなければならぬからです。

私が講義で強調したのは、自己肯定感ならぬ「自他肯定感」。私を大切にするとともに、同じように相手を肯定できるか。教育の目的は「人格の完成」と教育基本法にあります。もっと具体的に言えば「人が幸せに生きていくための土台」をつくることだと考えます。そのことで私がいつも授業で言っている「自己効力感」「レジリエンス」「自己有用感」の3つが土台としての「自己肯定感」を育むということ。この実現のためにあるのが「自他肯定感」。人間関係において「自分と同様に相手を大切に思う」姿勢。そのことが自分の幸せに導いていくのだと思います。

人間は所詮、弱い生き物だから集団をつくり、そして助け合って生きています。ただ人は誰しもが自分本位です。集団や組織の中で、自分本位の見方や世界観だけで考えていては、相手との信頼関係は築けません。いつしかリーダー的立場になったときに、より一層自己理解が進みます。自分のあり方をフォロワー（生徒・部下等）の反応で知ることになるからです。

人間関係についてのメタ認知、つまり客観的に自己を認知することは困難です。そのことを自覚しつつ俯瞰的に自分を離れて、相手であったりその他の視点で自分を顧みることができる人が成長、そして信頼される人になっていくのではないのでしょうか。

最後に、「教育は国家の礎」であり、未来の宝である子どもたちのことを考えていかなければなりません。本学での教職課程が、そのことについて考えるきっかけとなっていれば幸いです。そして皆さんの成長につながっていれば望外の喜びです。これからも笑顔を忘れず、自分を大切にするとともに周りの人に幸せと勇気を与える人となっていってください。

教職実践演習を終えて

教職課程の最後の履修科目が教職実践演習です。

4年間の教職の学びを総合し、新たな知識やスキルを身に付けながら教師としての資質を高めることを目的としています。様々な方法を用いて実践的に学びました。その内容をいくつか紹介します。

○ロールプレイでアサーティブな応答について学びました



上越教育大学の早川裕隆先生のご指導のもと、「花火大会に出かけた中学生の息子が夜中の12時に帰ってきたとき、母親である

あなたはどうか対応する？」というテーマで、実際に、中学生の息子役とその母親役を演じました。

○エピペンを打つ練習をしました

秋田市立河辺中学校の渡邊文子養護教諭のご指導を受け、食物アレルギー反応でアナフィラキシー症状が起きたときの対応を体験しました。



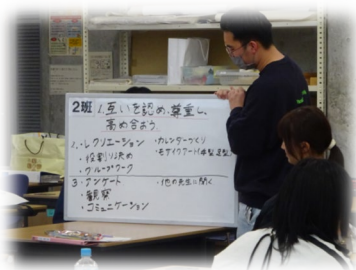
○ICTを活用した授業に挑戦



事前にインストールしたアプリ”Canva”を用いてICTを活用する授業の重要ポイントについてグループで議論しました。その後、タブレットを用いてアニメーションを作成する授業を想定した、授業参考作品づくりに取り組みました。

○グループワークでワークショップ

「学級目標をつくらう」というテーマで、実際にグループごとに学級の目標をつくりました。担任という存在の重みや学級経営の重要性を学びました。



○構成的グループエンカウンターをやってみました

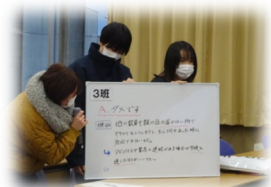


「勇気づけの花束」を通して、元気ががんばろうとするエネルギーを相互に与え合うことができました。

○実際に学校で出会うリアルで重いテーマにも取り組みました

<先生とSNSでつながっているの？>

女子中学生からの質問に答えるという設定で、グループで話し合い、回答を作成しました。グループによって意見が割れ、SNSの扱いの難しさが浮き彫りになりました。



<美術の授業で怪我をしたら？>



彫刻刀で指に怪我、美術室は教室等から離れており、教師はあなた一人、まだ流血中という想定で、さあ先生どうする？ 各グループが対応を考えました。

○先輩とのトーク

11月9日(土)には、教員として活躍されている先輩4名(県外小学校1名、県外中学校1名、県内中学校1名、県内高校1名)をお招きし、教職の喜び、社会人として大切なことなどについてお話を伺いました。また後半は、グループに分かれてのフリートークとなり、大学の専攻で学んだことがどう役立っているか？新採の教員にとって何が一番大変か？授業づくりで心がけていることは？仕事で行き詰まったらどうしますか？など、具体的で活発な意見交換が行われました。



卒業生の抱負



★どうやったら物事が良くなるのか、もつと楽しくなるか、前向きに自分を楽しませるつもりで工夫したり、努力したりすることを身につけていきたい。

★より重い責任を背負っていく覚悟をもちつつ、自分の興味が尽きないようなバランスを保ちながら働いていきたい。

★「自分の工夫次第で何かを変えられる」、「形にできる」という動機付けは、教職の真意であり、教職課程で得たことである。

★社会に出て働くことがゴールなのではなく、更なるスキル、キャリア向上のために自分なりの夢を持って充実した人生を送りたい。

★礼儀や言葉使いに関しては、自分で勉強したり、周りから吸収する意欲がなければならなかったりするため、とにかく自分から学びの機会を求めたい。

★社会で適応し続けることが重要であることから、自分で学ぶことが社会人により重要になる。

★自分なりのやりがいを見つけながら楽しみつ、教師としての責任をしっかりと持ちながら歩んでいきたい。



卒業おめでとうございます。

「自分探し」の旅をするという固定観念で生きてきましたが、最近ハッとしたことがありました。

人生とは自分探しをすることではない。人生とは自分を創ることである。

Life isn't about finding yourself.

Life is about creating yourself.

(By George Bernard Shaw)

(毛内 嘉威 副学長 教授)

卒業、おめでとうございます。教職課程受講者の過半数は1・2年生のときの担任は誰だったでしょう？ 入学当初、明るく行動的な学年だと思いました。そして間もなく4年の月日が経ち、卒業。これからが自分の本当の人生が始まります。荒海となる？ かもしれないなかで航海することになっても、自分の針路を見失わず、責任感と使命感を持って、それぞれの道を生きていってください。それでは「出発、進行！」。

(野々口 浩幸 教授)



ご卒業おめでとうございます。各専攻の学びに加え教職の学びを修めたみなさん本当に頑張りましたね。ここでは、他者の目線に立って、物事を考え、外の世界と自分を調整しながら物事をみたり、見方・考え方をつくったりするプロセスを沢山経験することができたと思います。そしてこれからの人生の中で、ここで培った学びが必ず生きてくると思います。仲間との存在も大切です。1人で悩まず、仲間と共に一緒に取り組んで行きましょう。

(尾澤 勇 教授)

ご卒業おめでとうございます。4年間の教職課程の授業はいかがだったでしょうか？様々な学外での実習に課題の嵐と、苦労が絶えず挫けそうになった人もいるでしょう。一方で、決められた時間に物事をこなす力、コミュニケーション能力、仲間…皆さんにとって何か一つでも得られた実感があつたのなら、教職課程の一員としてこれ以上に嬉しいことはありません。4年間で得た経験を糧と自信に、堂々と社会へ羽ばたいてください！

(大関 智子 助教)

私が教職支援室に来たのは、皆さんの入学と同じ年の4月でした。ですから、皆さんは教職課程の最初から教員免許取得まで関わる事ができた最初の学生達であり、皆さんの卒業には特別な感慨を覚えます。すでに退官されていますが、指導に関わり、いつも皆さんの成長を願っておられた特任教授の佐々木晃久先生、佐藤淳先生、佐藤薫先生、山脇聡先生もきっと、祝福されていることと思います。卒業おめでとうございます。

(齋藤 透 特任教授)

「人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に」と言った人がいました。私たちの出会いはそれぞれの人生にとって必然的なものであるかもしれません。むしろ、そう受け止める覚悟が求められているのかもしれません。皆さんとの出会いに感謝しつつ、今後の飛躍を祈っています。

(渡部 克宏 特任教授)

年明け早々、出張で四国（香川、徳島）を訪問しました。予定されていた会議に参加した後、あちこちを散策。温暖な気候の下、初めて見聞きするものや美味しい食文化に触れ、久しぶりに心身がリフレッシュするとともに知的好奇心が刺激され、見聞を広めることの素晴らしさを改めて実感しました。

実際に現地を訪問する。その人に会って話を聞く。実物に触れる。皆さんには今後もこうした直接体験を大切にしてほしいと思います。

(嶋崎 公人 特任教授)

海図のない海を帆走するには勇気がいるね
by スヌーピー

AKIBI で鍛えたのは創造の翼
AKIBI で育んだのは人との繋がり
Akibi で学んだのは生きることの意味
勇気の湧き出る武器を手に入れました
大丈夫です
あなたならやれます
うらやましいです
卒業、おめでとう！

(加賀谷 亨 特任教授)

ご卒業おめでとうございます。「歴史は繰り返す」という故事があります。いつの時代も人間の本質は変わらないため、過去にあったことは、後の時代も繰り返すという意味です。伝染病にしても、天災や人災、そして戦争も繰り返して起っています。しかしながら、その災難を克服してきた歴史があることも認識すべきです。個々の人生においても同じです。自身の課題は自身で解決するよう努め、充実した人生を歩んでください。

(谷村 格 特任教授)

4年間の大学生活はどうでしたか。美術を学ぶには恵まれた環境で、制作に打ち込めたでしょう。教職課程では、制作とは少し距離を取って美術を俯瞰的に見る機会もあるので、皆さんにとって何か心の休まる場所となっていたら嬉しいです（科目も多く大変だったとは思いますが…）。これから社会人に、あるいは進学される方も、教職課程や大学生活での体験を糧としながら、広い視野を持って歩いていてください。皆様のご活躍をお祈りしています。

(日野 沙耶 助手)

卒業おめでとうございます。社会人として働き始める人もいれば、進学する人もいるでしょう。それ以外の選択をする人もいるかもしれません。その選択が良いのか悪いのか、いまはまだ分からず不安もあると思います。ですが、あまり心配しすぎないでください。どのような選択したとしても、その意味を作り出すのは、その後の行動次第だと私は思います。みなさんがそれぞれの場所で活躍されることを願っています。

(竹本 悠太郎 助手)

ご卒業おめでとうございます。皆さんにとって秋美での大学生活は、どのようなものだったでしょうか。一年毎に成長していく皆さんの姿を見て、自分も頑張ろうと背筋の伸びる思いになりました。グループワークでは、お互いの考えを確かめ合い、意見が対立する場面でも自分の意志をしっかりと持って話し合う姿が印象に残っています。これまでやってきたことは必ず力になっています。皆さんのご活躍を心よりお祈りいたします。

(阿部 ゆかり 助手)